

2018年3月25日川越教会

十字架の祈り

[聖書] マルコによる福音書15章33～39節

昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

加藤 享

[序] キリスト教の特色

教会を探す目印は**十字架**です。十字架はイエス・キリストの死を表しています。十字架刑は最も重い罪を犯した者が受ける**一番厳しい刑罰**です。死んでいく苦痛を出来る限り引き伸ばして味あわせるもので、イエス・キリストの場合は、**朝の9時に磔られ、午後3時に息を引き取られました**。6時間の苦痛です。

多くの信者を集める宗教の中で、このような酷い死に方をされたお方はイエス・キリストだけです。ですからイエス・キリストを救い主と信じる**キリスト教の特色**といえば、**十字架の死**ということが出来るでしょう。キリストはユダヤ教の一番大事な**過越祭**の日曜日にエルサレムの都に入り、木曜日の夜に逮捕され、**金曜日に十字架刑に処せられました**、そして三日目の**日曜日の朝**、墓から**復活**し、弟子たちにご自身を現しました。

この最後の1週間の記述に、新約聖書の**4つの福音書**はいずれも、**約1/3の頁**を当てています。キリスト教会にとって十字架と復活が、いかに大事かを現わしていると思います。今日は暦の上で、イエス・キリストがエルサレムに入城された日曜日に当たります。今週の金曜日が十字架の**受難日**に当たり、そして来週の日曜日が復活を祝う**イースター**です。日々に4つの福音書を読み比べながら、祈りつつ受難週を過ごしたいものです。

[1] 十字架上での主の言葉

四つの福音書には、磔けられたキリストが**十字架の上**で語られた**七つの言葉**が記録さ

れています。**ルカ福音書**にある三つの言葉は、さすがは救い主でなければ語れないお言葉だと、誰しもが素直に感動するものです。

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(23:34)。「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(23:43)。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」(23:46)。このような言葉を、**激しい死の苦しみの中で言える人間**が果たしているでしょうか。私もこのお言葉のゆえに、イエス・キリストは人間ではなく、**人間の姿をとって**私たちの所に来てくださった**神、救い主**に他ならないと信じる事が出来たのでした。

ヨハネ福音書が記す言葉。「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」「見なさい、あなたの母です」(19:26～27)「渴く」「成し遂げられた」(19:30)。これも、母マリアのこれからを案じて弟子ヨハネに託した愛、神の救いの業が完了し、自分は**使命を果たした**という明確な自覚を示す、キリストならではの言葉です。

ところが一番最初に書かれた**マルコ福音書**と、それを下敷きにして二番目に書かれた**マタイ福音書**は、「**わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか**」という言葉のみを記しています。そしてこのように大声で叫んで死んでいかれた方こそ、「**本当に神の子だった**」と、十字架刑を執行したローマ兵の隊長が言ったと証しています。どうしてでしょうか？

イエス・キリストは、弟子たちの信仰が深まり「あなたは、**生ける神の子**です」と言えるようになる、ご自分が祭司長や律法学者に引き渡されて侮辱され鞭打たれて**殺される**ことを、弟子達に繰り返し**予告**されました。弟子達は当然驚き、当惑しました。

弟子達と最後の晩餐をとられた後では、いつも祈る場所に行き、「アッバ父よ、あなたは何でもおできになります。**この杯を取りのけてください**」「しかし**御心に適う**ことが行なわれますように」と祈られました。そして逮捕されていかれたのです。**十字架の死を神の御心**として受け容れ、いわば**覚悟の死**を迎えたのでした。それなのに最期に至って、どうしてこのように叫ばれたのでしょうか。

昼の12時のなると、**全地**が光を失い、**暗**くなりました。死刑を執行していた責任者の百人隊長は驚いて、目をこらして十字架の犯人を見つめていたことでしょう。午後3時、突然「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」というイエスの叫びが、**闇**について聞こえてきたのです。兵士の一人が、「**エロイ**」を「**エリヤ**」と聞きとりました。「あの大予言者エリヤを呼んでいるのだろうか。それなら彼の気力を取り戻してやれ」と、酸いぶど

う酒を含ませた海綿を長い葦の棒の先に付けて、飲ませようとした。兵隊たちも、奇跡の数々を行ったイエスだから、もしかしたら奇跡を起こすかも、という期待を抱いていたのでしょう。群衆も「メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう」とののしっていたのですから。

しかし主はぶどう酒を受けずに、大声を出して、息を引き取られました。するとそのお姿を見ていた百人隊長が言ったのです「本当にこの人は神の子だった」。人にも神にも見捨てられ、大声で叫びつつ、惨めに息を引き取ったイエスを見て、「本当にこの人は神の子だった」と、どうして言えたのでしょうか？

マルコ福音書は、「神の子イエス・キリストの福音の初め」という言葉で始まっています。ナザレ村の大工をしていたイエスが、バプテスマのヨハネからヨルダン川でバプテスマを受けた時に、聖霊が降って来て「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と語ったとマルコは記述しています。そしてそのイエスが、十字架上で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ぶ姿に、百人隊長が「本当にこの人は神の子だった」と思わず語った言葉で、地上の生涯を締めくくっています。神にも人にも見捨てられて、十字架で惨めに息を引き取られたイエス・キリスト。一体このような死に方が、どうして神の子を現わしているのでしょうか。

[2] 主の叫び

私達夫婦は、目白ヶ丘教会の熊野清樹牧師の許で、信仰を育てられました。先生の家は熊本の士族の出で、宮本武蔵の手造りの木刀をお持ちでした。私がそれを倉から見つけ出して振り回していたら、「おい、おい、我が家の家宝だぞ」と叱られました。先生がよく語られた武蔵の逸話の一つに「磐の実」があります。武蔵は晩年熊本藩主細川侯に仕えました。

ある日、細川侯が武蔵に尋ねました。「そちは剣道の極意を磐の実と言う。それはいかなるものか」「かしこまりました。では御覧にいれましょう」。彼は一人の若侍を呼び出しました。「寺尾彙之助、殿のお言葉である。切腹を申し付ける」。殿様はびっくりしました。「はつ、承知仕りました。仕度の儀もあり、しばらくのご猶予のほどを願います」。静かに退座していく後姿を指差して、「殿、あれが磐の実でございます」

剣の道では、相手に対した時に、驚き・恐れ・疑い・惑うことによって、心が乱れぬように、日頃の修練を積んでいます。主君に命を捧げて仕えるという一点に心を定めて、その命令がいかであれ動揺することのない姿に、剣道修練の極意を見せたのでした。佐賀藩の武道修業書「葉隠れ」にも、有名な言葉が記されています。「武士道とは、死

ぬことと見つけたり」。武士たる者、何時いかなる時にも、見事に死ぬるよう心がけるべしというのです。

私たちは自分が何時かは必ず死ぬことを、一応は知っています。でも何時、何処でどのような死に方をするかを、前もって知らされたら、どうでしょうか。その時が近づくにつれて、身も心もすくんで、平常心ではいられなくなるでしょう。だからこそ、死に際して見苦しく取り乱さず、従容として死に臨む姿に憧れる心の美学が、私たち日本人にはあるのです。

ところがイエス・キリストは、ご自分が何時、何処でどのように死ぬかを、はっきりと自覚して居られました。それを弟子たちに繰り返し予告しながら、その死を目指して、一直線に進んで行かれました。それが、いざその時が迫るや、激しく恐れもだえ始め、弟子たちに「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい」と頼んで、祈って居られます。

さらに十字架の上の断末魔の苦しみの中で、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と大声で叫んでおられます。そのお姿は、私たち日本人が期待する立派な死の方に反するものでした。そこで作家の芥川龍之介は、イエスのこの叫びにつまずきました。彼は作品(西方の人)の中で、武士の妻おしのに、このイエスを「見下げ果てた臆病者」と言わせ、彼自身イエスを捨てています。主イエスの十字架上の叫び——これは一体どういうことなのでしょう？

[3] 裏切者と一つになって下さった救い主

先週は丸山主事が、ユダの裏切りについて説教されました。弟子たちとの最後の晩餐の席上で、主はユダの裏切り、ペテロの不信仰を予告されました。そして食後にゲッセマネの園で心を注いで祈られました。「私は死ぬばかりに悲しい」「アッパ父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかしわたしが願うことではなく、御心に適うことが行なわれますように」。主は愛する弟子ユダとペテロが、ご自分の愛から外れて裏切りと不信仰に落ちていくことが、何よりも悲しかったのです。しかし彼らを断罪することをせず、ご自身が深く苦しむことによって彼らが救される道、すなわち十字架の救いが成し遂げられるように、徹底的に祈り抜かれたのです。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」この祈りは、神に捨てられた者の代弁の祈りではないでしょうか。そして主イエスが、神の御子でありながらユダやペテロに代って、神様に捨てられる絶望を経験されたのです。

本当にそうです。丸山主事が述べられた通りですね。寝食を共にして来た愛する弟

子たちの不信仰・裏切りを心の底から痛み、悲しみ、彼らに代わってご自身でその罪を引き受け、神に捨てられる裁きを受けておられる主イエスの十字架の死ですから、それをじっと見守っていた百人隊長は、主イエスからにじみ出て来る愛に感動して語ったのです。「本当にこの人は神の子だった」と。

独り娘を自殺で失った私の先輩牧師の手記をご紹介します。彼女は親の反対を押し切って17才で結婚しました。しかし7ヶ月で心身とも疲労しきって 帰って来ました。そこで親と子はよく話し合いました。そしてもうこれ以上結婚生活を続けることは無理だと、本人も納得しました。

ところが、次第に明るさを取り戻し始めた矢先に、相手から電話が来ると、親が止めるのも振り切って、飛び出して行きました。眠れぬ一夜を明かした親は、次の朝アパートの様子を見に行き、話し合う声を確認して、ほっとして帰って来ました。ところが10時間後に、彼女はそのアパートの一室で、ひとり命を断ってしまったのです。

この父親は牧師を辞めようと思いましたが、しかし悲しみと絶望のどん底で、彼は裏切者ユダと、ユダを自殺させてしまった主イエスを思いめぐらすようになりました。ユダは深い後悔の中で祭司長・長老たちのところに、銀貨を返しに行きます。しかし「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と突き放されて、自殺して果てました。この父親は、自分たちの態度の中にも、娘を突き放すものがあつたので、自殺させてしまったのではないかと、自責の念にかられたのです。

しかしそのうちに彼は、ユダを自殺させてしまった主イエスの心に思いが行くようになりました。主ご自身が、徹夜の祈りをもってユダを使徒に選んだのです。ユダの崩れを知って愛を言葉にこめて語り続け、思い留ませようとしていました。それでも自殺させてしまった主の悲しみは、如何ばかりだったことでしょうか。その時この父親は、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになつたのですか」という叫びを、特別な響きをもって聞きとつたのです。

「主はここで、ユダの叫びを一緒に叫んでくださっているのだ。主イエスはここで、神から見放された絶望するユダと一つになって下さって居るのだ。主はユダの罪をもご自分が引き受けて、十字架についてくださっているのだ」。彼は牧師になる時、自分の牧師から贈られた言葉をあらためて思い起こしました。「ただ主、捨てたまわざるが故に」。

最後に彼は手記をこう結んでいます。「私は心のどこかで、主に捨てられたら、もう一切は終わりだと考えていました。しかし、娘を自殺させてしまった悲痛を通して、イエス・キリストにおいては、私も娘も捨てられてはいないと示されました。」「全ての捨てられた者が、このイエス・キリストを信じるようになること、神に捨てられる者は一人もいな

いことを信じる者になることこそ、神が一番望んでおられることであり、またこれが、捨てられた者にとっても一番望ましいことだということを、知らせていただきました」。

[結] ユダの叫びを叫んで下さった主イエス

この父親は、イエス・キリストが、ユダの罪すらも引き受けて十字架にかかり、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と、ユダ自身の叫びをご自分の叫びとして叫びつつ、死んで下さったのだと受けとめて、深い慰めを見出すことが出来たのでした。こう叫んで死んでいかれたイエス・キリストを、神は墓の中から復活させて、天の御許に迎えて下さったからです。

イエス・キリストの十字架の死により救うことの出来ない罪は、一つもないのです。イエス・キリストから見捨てられる者は一人もいないのです。イエス・キリストこそ、全ての人の救い主です。感謝いたしましょう。

祈ります：全ての者の父なる神さま、御子イエスキリストを私たち全ての者の救い主として、この世にお遣わし下さった恵みを深く感謝いたします。主は、ユダの裏切りを深く悲しみ、苦しみ、あなたから見捨てられることのないようにと、ユダになり切って叫び訴え、彼が自殺する時を同じくして、ご自分も十字架にかかり、ユダの罪を贖って死んで下さいました。ユダばかりではありません。私たち一人一人をも同じ様に愛し、祈り、導き、共に死んで下さり、更に新しい命に生きる者として下さる救いの恵みに、与らせて下さることを、心から感謝いたします。自分の罪深さをしっかり自覚出来ない私を憐れみ、深く祈る者にして下さい。主よ、殺し合う戦争を止めさせて下さい。平和をお与え下さい。イエスキリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン